

總長 次長 部長 課長

杉山

曾根

甲斐

服部

軍事機密

一月十日決定

南方作戰陸海軍中央協定別冊

陸海軍航空中央協定追補其一

井本

柳田

高瀬

村岡

高木

近藤

陸軍

陸海軍航空中央協定追補其一

一 攻略後、南方要域ニ於テ航空基地、使用区分ヲ左、如ク概定シ各地域毎
ニ作戰一段ヲ落後適時本区分ニ據ルモノトス 共用基地ニ関スル細項ハ現地陸
海軍指揮官相互協議決定スルモノトス

(一) 香港

錦田 陸軍

啓徳 (水上) 海軍

啓徳 (陸上) 共用

(二) 比律賓

(1) 海軍ノ使用スル基地

ニコラスフィールド

キヤビテ

イバ

オロソカボ

「セグ」

「タバオ」(水上)

「カンボアング」

「フェルトプリンセサ」

「ホロ」

(四) 海軍主用シ陸軍共用スル基地

「レカスピ」

「タバオ」(陸上)

(三) 陸軍ハ前記以外ノ基地ヲ使用ス

(三) 英領「ホルネオ」

ハ海軍ノ使用スル基地

「ラブアン」

(四) 陸軍ハ右以外ノ基地ヲ使用ス

(四) 英領馬來

陸軍

(イ) 海軍、使用スル基地

「セレター」陸上及水上

「カラシ」(水上)

「ペナン」(水上)

「アエルトワル」

「ハツパハット」

(ロ) 海軍主用シ陸軍共用スル基地

「クワンタン」

「コタバル」

「ペナン」(陸上)

(ハ) 陸海軍共用スル基地

「センバワン」当初ハ専ラ陸軍之ヲ使用

「ガラシ」(陸上)

(ニ) 陸軍ハ前記以外、基地ヲ使用ス

陸軍

(五) 緬甸

(イ) 海軍ノ使用スル基地

「ラングーン」(水上)

「アキアブ」(水上)

(ロ) 陸海軍共用スル基地

「ヒクトリヤポイント」

(ハ) 陸軍ハ右以外ノ基地ヲ使用ス

(六) 「スマトラ」

(イ) 海軍ノ使用スル基地

「サバン」

「コタラジャ」

(ロ) 陸海軍共用スル基地

「パダン」(当初陸軍使用ス)

(ハ) 陸軍ハ右以外ノ基地ヲ使用ス

(陸軍部 陸軍司 陸軍部)

陸軍

(七) 爪哇

(イ) 海軍ノ使用スル基地

「バタビヤ」(水上)

「ケリリタシ」

「セラシ」若ハ「アンジエルキツル」

「ケカリ」若ハ「マジウシ」

「タンジヨンベラ」(スラバヤ)

(ロ) 陸軍ハ右以外ノ基地ヲ使用ス

(ハ) 蘭領「ホルネオ」

(イ) 陸軍ノ使用スル基地

「バンジエルマシシ」

(ロ) 海軍主用シ陸軍共用スル基地

「タラカン」(陸上)

「バリクパパン」(陸上)

(八) 海軍ハ前記以外ノ基地ヲ使用ス

(九) 前諸項以外ノ太平洋諸島嶼ニ於テハ基地ハ海軍主トシテ之ヲ使用ス

ニ作戦ノ必要ニ依リテ協定ニ據リ前記区分ニ拘ラス相互ニ基地ヲ使用シ又

兵力移動航空連絡等ノ爲相互利用スルコトヲ得

右ノ場合所在軍ハ所要ノ便宜ヲ供與スルモトス

松田

栗

田邊

極秘

北軍參編第三二二號

大本營 陸軍部 參密第三二二號第八

水戸

幸村

陸

軍

獨立第三十飛行團、指揮隷屬ニ関スル意見ノ件

昭和十七年二月二十四日

北部軍參謀長

木村 松治郎

印

參謀本部總務部長 若松只一殿

首題ノ件別冊ノ通意見ヲ有スルニ付配慮煩ハシ度通牒ス

極秘

陸軍

獨立第二十飛行團ノ平時ニ於テ指揮隸屬ニ関スル意見

獨立第二十飛行團ハ北部軍司令官ノ隸下外ナルモ常時北部軍司令官ノ指揮下ニ入ラ

シメ置クカ若ハ左記事項ニ関シ其ノ區處ヲ受ケシメラレ度

左記

北部軍ニ直接必要ナル作戰準備並ニ防衛ニ関スル事項

理由

一 北部軍及獨立第二十飛行團ノ當面スル北方作戰ヲ最モ適切ニ完遂シ併セテ空

地ニ一體ノ作戰準備ヲ有効ニ促進セシムガ爲ニ獨立第二十飛行團ハ平素ヨリ北

部軍司令官ノ指揮下ニ在ラシムルヲ要ス

平素別個ノ關係ニ置キテ開戦後臨機指揮下ニ入ラシムルハ兩者ノ作戰遂行及

平素ヨリノ作戰準備促進上價値十分ナラサルヲ思ハシムルモノアリ

乃チ作戰實施ノ爲各種狀件ヲ同一ニシアル北部軍司令官ノ指揮下ニ在ラシメ

平素ヨリ有機一體ノ關係ニ在ラシムルヲ可トス

而シテ此ノ事タルヲ開戦初期ニ於テ航空軍減戦ノ爲ノ航空大部隊ノ統合

使用ヲ何等妨害スヘキモノニ非ス

又北部軍ハ此ノ正面ニ於テ作戰準備ノ爲ニ飛行場ノ設定其他之ニ關聯スル航空作戰一部ノ準備ヲモ實施シツツアリ

此ノ際航空部隊ヲ自己指揮下部隊ニ持テテ之カ準備ヲ進ル時ハ所謂統合的能率的ナル作戰準備ヲ實施スルヲ得ヘシ

一、航空自体ノ後方補給人員ノ補充並ニ航空本然ノ教育訓練等ハ本屬ノ根源ニ直接連繫アラシムル如ク隸屬ハ内地飛行集團長又ハ滿洲航空兵團長ニ屬セシムルヲ可トス

三、以上ニ依リ其ノ隸屬ハ何レニ在ルヲ問ハス獨立第二飛行團ハ北部軍司令官ノ指揮下ニ在ラシムルヲ希望ス

諸般ノ狀況ニヨリ止ムヲ得ル時ニ於テモ北部軍ノ任務ト現況ニ鑑ミ軍ノ任務達成上直接必要ナル作戰準備並ニ防衛ニ關スル事項ニ就キテ北部軍司令官之ヲ區處シ得ル如クセラレ度

陸軍

独立第二十飛行団ノ作戰準備ニ関シ別紙ノ如ク第一飛行集團長ニ命令
相成度

謹ミテ

奉仰充裁候也

昭和十七年三月六日

参謀總長

杉山元

第一飛行集團長ニ與ル命令

一 第一飛行集團長ハ独立第二十飛行団ヲ樺太及北海道方面ニ位置セシメ主

トシテ北方ニ對スル作戰ヲ準備セシムヘシ

二 細項ニ関シテハ参謀總長ヲシテ指示セシム

軍事機密

位 大		長 總		名 件	名 宛	發 送 者
		(杉山)				
官 次		總 次 長				
		(田辺)		獨立第二十飛行団、作戰準備ニ関シ命令相成度件	御 説 明	發 送 月 日
長(局)部 長		課 主 長				
		(田中) (若松)				
課 回 長		課 主 長		者 信 發	時 分	發 送 者 印
長 課 常 連		課 主 長				
		(服部) (三神)				
		者 主 任				發 送 者 印
		(高木)				

昭和十七年三月六日午前 時 分

陸軍

獨立第二十飛行団、作戰準備ニ関シ命令相成度件

早裏ニ允裁ヲ仰キ編成セラル独立第二十飛行団ハ近ク其ノ編成ヲ完結スルヲ以テ

帝國北邊ノ情況特ニ米國活動ノ現況ニ鑑ミ北方ニ對スル作戰ヲ準備スル如ク命

令相成度特ニ企圖ノ秘匿及紛争防止ニ関シテハ深甚ナル顧慮ノ下ニ慎重ヲ期

セシメ度

右謹ミテ

允裁ヲ仰キ奉ル

昭和十七年三月六日

參謀總長

杉山元

昭和十七年三月六日

美談集

第三飛行團

陸軍

（昭和六年八月）

1165

陸軍

戰隊長代理堀田中隊長機自爆狀況 飛行第七十五戰隊

一 塔乘機番號及塔乘員官姓名

九九式双座爆轟機第三〇八號

中隊長陸軍大尉堀田邦美(操縦) 陸軍中尉井村賢一

陸軍曹長園田秀雄 陸軍軍曹横田秀夫

二 自爆年月日 昭和十六年十二月十三日

三 任務 ペナン島港灣に於て敵輸送船団攻撃

四 戦闘狀況

飛行団長、南部泰國ナコン飛行場ニ在リ十二月十二日ペナン島ジョウジタウン港ニ

ハ敵ノ輸送船団多數集合ニ見テ知リコンポントランシニ於テ躍進準備中輕

爆戰隊ニ之カ攻撃ヲ命ズ 即チ堀田大尉ハ戰隊ヲ率ヒ泰灣ヲ越エテ直十二

之レカ攻撃ヲ敢行シ歸路ナコンニ着陸シ泊ス 翌十三日再ビ同目標ノ攻撃ヲ命

ズルヤ大尉ハ戰隊ヲ部署シ自ラ中隊ノ三機(ニ番機 機中尉機)ヲ指揮シ

九〇五ノナコンスリタラト飛行場ヲ出発最先頭ニ在リテ一〇一五目標上空ニ到着ス

陸軍省 陸軍部

パナ島ジヨウシタウン港ニ尚敵輸送船六隻アルヲ目撃シ大尉ハ編隊ヲ解散シ
 單機毎ノ降下單機毎ノ降下爆轟ヲ命ジ自ラ先頭第一ニ熾烈ニ對空射撃
 ヲ目シ痛烈ナル降下爆轟ヲ反覆セリ攻襲中一。三。頃突如敵機戰鬥機約
 十機(機種ハツラロー)現出シ各機其ノ三乃至四機ノ攻襲ヲ受ク大尉機ハ敵
 戰鬥機ト交戦シツバナ島對岸ゾテルウォース側近ニ在リシ敵船舶ヲ爆轟
 克ク命中彈ヲ與ヘ且銃婁以テ敵戰鬥機ヲ喪退歸途ニ就キテ愛機及塔
 乗者ハ無敵ノ敵彈ニ依リ傷ヲ「アロルスター」南方十五軒「コウン」附近ニ達シ
 遂ニ力盡キ恰モ「アロルスター」セメリン道ニ潰走シ來レル敵大部隊ニ具以中
 ニ突入シ壯烈ナル自爆ヲ遂ゲタリ時ニ一。五。ナリ
 五。自爆狀況(目撃セル土民ノ言ニ依ル)
 同時頃「コウン」附近ハ我カ地上軍隊ノ急迫ニ依リ敵ハ「アロルスター」セメリン國
 ニ墜崩ヲ打ツテ潰走シテ「依空」ニテ飛行シ來レル日軍機ハ折柄「コウン」附近ヨリ國
 道ニ向ヒ疾走中ノ敵自動貨車ニ突進シ之ヲ紛碎焚火セシメ自機モ亦羽翼端及
 尾部方向舵ヲ止ムルニ至テ原形ヲ留メ紛碎シ塔乗者全員ハ壯烈ナル戦死ヲ

166-2

遂に敵自動車、残骸中ニ飛行機ノ破片ヲ止メタリ

五附記

屍体ヲ收容驗スルニ大尉ノ身ニ機関砲彈數発ヲ受ケアリ(他ノ同乗者モ全シ)而モ
 克ク敵船舶ニ對シ必中彈ヲ與ヘ以テ任務ヲ完遂シ且優勢ナル敵戦闘機ト交戦
 之ヲ退退シ傷ケ愛機ヲ傷ケ身ヲ以テ操縦シ歸還ノ途ニ付極メテ困難ナ
 ル飛行ヲ續行スルコト約五分力正ニ盡キナントセシモ尚最後ノ餘力ヲ以テ敵轟滅ノ
 一大火玉ト化シ愛機ヲ驅ツテ敵中ニ穴ヲ入散華セシモノニシテ其ノ氣力ノ旺盛ナルコト
 實ニ壯絶鬼神ヲ驚カシムルモノアリ

本攻撃ニ於テ僚機タル福地曹長機及飛行第三七戦隊青木中尉機モ亦
 敵戦闘機ト交戦シ敵彈ヲ受ケ発火シジャウジタン港内ニ壯烈ナル自爆ヲ遂
 ケリ

故陸軍大尉堀貞夫戰歴概要

出陣迄ノ経歴概要

1. 大正五年拾貳月貳日富山縣下新川郡三日市町三日市貳十六番地ニ生ル

2. 昭和十三年六月三十日航空兵少尉ニ任官飛行第三聯隊附被仰付ル

3. 昭和十三年七月三日操縦戰技教育ノ爲下志津陸軍飛行學校ニ分遣同年十月二十九日修學終了飛行第三九戰隊附被仰付テ朝鮮會寧ニ赴任ス

4. 昭和十三年十二月三十日航空中尉ニ任ゼラレ

5. 昭和十四年九月九日第二次ノモニハシ事變ニ參加同年九月十六日停戰協定成立ニシテ

リ原隊ニ歸還爾後同隊ニ在リテ教育訓練ニ從事ス

6. 昭和十五年八月一日飛行第三九戰隊附被免陸軍航空士官學校生徒隊附ニ

補ゼラレ同月十日同校ニ到着

7. 昭和十六年三月一日陸軍大尉ニ任ゼラル

8. 昭和十六年十月四日獨立飛行第七四中隊長被仰付テ十月十四日着隊セリ

堀大尉戦績、概要

大尉、指揮中隊活動、概要

大東亞戦争勃発スルヤ大尉、指揮セル直協中隊、航空轟滅戦遂行上ノ必要ニ

基キ田中菅野兩支隊ノ決行セル敵空軍基地占領作戦ニ密接ニ協力シ次デ

軍主力ノ上陸ニ伴ヒ主トシテ土橋兵団ノ作戦ニ協力セリ

航空轟滅戦ニ方リス敵戦闘機、跳梁下熾烈ニ地上兵器ノ猛射ヲ冒シテ

飛行場占領部隊ト密ニ協力シ其ノ上陸又ハ戦闘行動ヲ容易ナラシムト共ニ地

区部隊未ダ到着セル未知ノ飛行場ニ逐次躍進シ勇猛果敢常ニ先頭第

一ニ著陸シテ其状況ヲ報告シ以テ爾後ノ戦闘指導並ニ飛行部隊ノ展開上

有力ナル資料ヲ提出セリ又此間屢々高等司令部幕僚ノ戦線視察又ハ重

要ナル連絡飛行等ヲ担任シテ高級指揮官ノ作戦指導上貢獻スル所大ナルモ

アリタリ

マシテ攻略戦ニ方リス殆ント全力ヲ與テ終始積極的ニ土橋兵団ト連絡協

調シ或ハ師団進路前方並ニ側方ノ敵情地形ヲ搜索シ之ヲ誘導ス又ハ掩護

ニ任ジ或ハ各縦隊間ノ連絡等ニ當リ時ニ果敢ナル對地攻惠ヲ敢行シ以テ師団各縦隊ヲシテ他ニ何等顧慮ナク一意マニラ方向ヘ前進ニ全カク傾注セシメ戰鬥ノ進捗ヲ迅速ナラシムルコトヲ得タリ

此ノ間殘存ノ敵戰鬥ハ我ガ直協機ノミヲ目標トシテ屢々擲擧タル攻惠ヲ試ミ來リシモ其都度巧妙且ツ果敢ニ之ヲ回避シテ單機何レモ任務ヲ完遂シ出勤以來一度ト雖モ戰鬥機ノ協力掩護ヲ受クルコトナク何レモ單機ヲ以テ勇躍任務ニ邁進セリ又敵ノ地上火器ハ頗ル熾烈ニシテ飛行機ノ致命部ニ命中不時著セシモノ三機ヲ始メトシ各機トモ殆ンド敵彈ヲ受ケサルハナキ状態ナリシモ澆刺タル地上作戰ト呼應シ士氣愈々旺盛ニ且取後迄克ク奮戦力闘眞ニ地上部隊ノ耳目タルノ任ヲ全セリ右中隊ノ行動ハ中隊ノ將兵全員ガ克ク一致團結旺盛ナル責任觀念ヲ以テ勇奮セル結果ニ外ナスト雖モ特ニ中隊長ノ率先垂範ト適切ナル指揮就中中隊長タル堀大尉ノ明朗潤達積極果敢ナル性格ハ中隊將兵ノ士氣ヲ昂揚シ著任日尚淺キ、拘ラスヨク團結ヲ鞏固化シ地上作戰協力ニ威大ナル戰果ヲ收メ得タルモノト謂フベシ

尚堀大尉空中勤務者トシテノ戦績ヲ略記スレバ左ノ如シ
個人戦績ノ概要

十二月八日開戦第一日台湾比島間ノ中継飛行場占領ノ目的ヲ以テバタン島バスコ附近ニ上陸セル陸海軍部隊ニ協カシ該方面ヲ搜索スベキ任務ニ基キ大尉ハ自ラ先陣ヲ承リテ出動ス

此日バタン海峡雲低ク航行頗ル困難ナリシニ屈セス彈痕ノ修理未完成ノバスコ飛行場ニ巧ニ着陸シテ上陸部隊ト連絡シ情報ヲ交換シ且同飛行場ハ直協機戦闘機等ノ着陸ニ支障ナキヲ確認シ且上陸部隊ノ狀況ヲ歸來報告セリ
ニ菅野支隊ノヒカン上陸ニ伴ヒ中隊ハ基地ヲヒカンニ推進シ田中菅野兩支隊ニ協カス

十二月二十日大尉ハヒカンヨリサンファアンニ至ルリングエ湾沿岸並ニアグノ河一帯ヲ搜索シテ決行シ該方面ノ敵狀地形ヲ綿密ニ偵察スルト共ニ敵火ヲ自目シテサンファアンヲトシテ領スル頑強ナル敵ヲ爆轟シ次テダクチン附近ノ菅野支隊ノ狀況ヲ確メ其ノ詳細ヲ田中支隊ニ通報スルト共ニ部隊長ニ報告セリ

三十二日午後バクタン附近ニテ田中支隊苦戦中ナリト報ニ接スルヤ大尉ハ當時飛行場現存ノニ機ヲ指揮シ一路バクタンニ急翔ス
 同地上空ニ於テ田中支隊ノ菅野大隊ハ敵中ニ孤立シ激戦中ナリカ大隊對空班ト連絡ノ上サンフラン北方高地ノ敵情搜索ヲ要求セシ其任ヲ果シ更ニ猛烈ナル敵兵火ヲ冒シサンフラン敵兵營ヲ爆轟直惠彈四発ヲ命中炎上セシ其ノ結果ハ地上部隊ニ適確ナル目標ヲ提供セリ
 次テ同大隊ノ前進ヲ阻止セントシテ頑強ニ抵抗スル敵第一線ニ對シ更ニ銃惠ヲ加ヘ右ノ敵情ヲ通報シ歸還セントスルヤ更ニ同大隊ヨリ通信筒鈎取ヲ要求アリ
 (當時菅野大隊ハ田中支隊主力ト離隔敵中ニ孤立シ通信杜絶セシ爲通信筒ニヨリ連絡セントシテ其ノ鈎取ヲ要求セシモノナリ)然ルニ鈎取リ位置ハ敵第一線直前ニシテ危険極リナカリシカ大尉ハ敢然彈雨ヲ衝イテ急降下シ通信筒ヲ鈎取ラントセシ瞬間敵彈ハ機関部ニ命中機ハ忽ケ火災ニ包ミル
 然レトモ大尉ハ沈着機敏ニ炎上スル愛機ヲ操リバクタン北方菅野大隊本部附近ノ海濱ニ不時着同時ニ機体外ニ脱出セシモ尾翼ニ懸リ地上ニ引摺ラレ各

所ニ打撲傷ヲ被リシモ屈ヒス菅野少佐ヨリ通信筒ノ内容ヲ承知シ其ノ自動車ヲ
 借り受テ制止ヲモ聞カス自ラ射撃ヲ冒シ敵中ヲ突破シテ田中支隊本部ニ到リ田中大
 佐ニ菅野大隊方面ノ状況ヲ通報シテ連絡ノ任務ヲ果シ友軍ノ危急ヲ救フヲ得シヨリ
 此ノ際身体各所ニ相當大ニ打撲傷ヲ受ケシモ旺盛ナル責任觀念ハ其ノ使同地ニ休
 宿スルコトナク苦痛ヲ忍ビ自動車ヲ驅ツテ(約百軒)未明四時在ヒカニ中隊ニ歸來シ
 飛行隊長ニ復命シ翌日ヲ出勤ヲ部署セリ

四 十二月二十二日軍主力ノリガエン灣上陸ヲ開始スルヤ直協中隊ハ上述ノ如ク全力ヲ
 與テテ土橋兵団トノ協力を任シ連日奮闘中ナリ此間病軀ヲ冒シテヒストロニ
 出場部下ヲ指揮シ未タ快癒セザルニ拘ラス十二月二十八日自ラ偵察者トシテ出勤
 ヒナロナン並ニカルメン飛行場ヲ偵察シカルメン飛行場カ中型機ノ使用可能ナルヲ
 確認報告セリ

五 更ニ翌十二月二十九日ニハ土橋兵団ノ爲メ指揮連絡ニ任シ各縦隊ノ状況ヲ搜索
 シテ之ヲ通報シ更ニ先遣隊カ戰車団トノ連絡ヲ行ヒ更ニ師団進路前方ノ道
 路ノ状況ヲ詳細ニ偵知シテ之ヲ報告シ師団長ノ作戰指導上多大ノ貢獻ヲ爲セリ

六十三月三十一日大尉ハ敵情搜索並ニ第四十八師団長ノ指揮連絡ノ爲カルメン飛行場ヨリ出動右側支隊ノ状況搜索後アノカット川以南ノ敵情ヲ搜索ス然ルニ敵大部隊ハバタアン半島方面ニ移動シツアルノ状況ヲ認クルヤ未知ノバリウアグ飛行場ニ敷然若陸ニテ戰車團ニ前面ノ敵狀地形ヲ通報スルト共ニ速ニカルニヒットニ猛進シ敵大部隊ヲ捕捉スベキ意見並ニ其ノ間ノ道路ニ何等地形上障礙事事實ヲ

陳述

七一月二日土橋兵団ノマニラ近郊ノ進出ニ伴ヒ中隊長自ラ各縦隊ノマニラ進惠狀況ヲ偵察ノ上更ニマニラ周邊ノ飛行場ヲ搜索敷然危險ヲ冒シテ僚機掩護ノ下ニニイルソン飛行場ニ著陸シ同飛行場ノ使用可能ナル事ヲ立證シ歸來報告セリ
(第十六師団ノ進出遅延ニ爾後ノ作戰上直協トシテ一步トテ巨推進ノ必要ヲ感ジアリ)

八一月三日直協中隊ハカルメン飛行場ヨリカバツアンニ推進ヲ命ゼラシ大尉ハ十七時坂本軍曹機ニ塔乗カルメン飛行場カバツアンニ推進ヲ命ゼラシ大尉ハ十七時坂本スル際偶々飛行場上空ニ未龍殺ル敵戦闘機P40ニ機ト遭遇空中戦闘ノ

後遂ニ敵彈ヲ浴ビテ壯烈ニ歿死ヲ遂ゲ

結言

以上大尉ノ行動ハ中隊長トシテ克ク飛行隊長ノ意圖ヲ體シ適切ニ中隊ヲ指揮シ以テ完全ニ空地ニ一体化ヲ具現シタルモノニシテ特ニ困難ナル狀況ニ際シテ率先身ヲ必殺ノ地ニ投ジテ勇猛克ク至難ノ任務ヲ完遂セリ
而シテ其ノ旺盛ナル責任觀念ト積極赴難ノ精神トハ正ニ空中勤務者ノ精華ナリト謂フモ過褒ニ非サルベキヲ信ス

(秘録 陸軍)

航空兵團編組ノ一部改定等ニ関スル件

皇軍ニ滿洲ニ第四飛行集團司令部ヲ編成セシ先般更ニ戰鬥三戰隊輕爆一戰隊等ノ新設ヲ令セシレマシテ近ク編成ヲ完結致シマスニ航空兵團ノ編組中ニ新ニ第四飛行集團ノ編成ヲ定メ其他所要ノ改定ヲ令シ又比律賓方面ノ航空部隊統率ノ爲メ第三飛行團ノ編成ヲ令シテ戴キ度ト存ジマス

尚米國ガ「アリウシヤン」アラスカ方面ニ兵力ヲ増加シテ居リマス現狀ニ鑑ミ北方ノ警戒ヲ更ニ嚴ナラシムル必要ガ御座イマスノテ目下関東軍方面ニ不足ヲ感ジテ居リマスル重爆轟隊偵察隊航空情報隊等ノ一部及新ニ編成セシタル部隊等ヲ南方ヨリ轉用シテ航空兵團ノ編組ニ入ラシムル様命令相成度

本命令ヨリ飛行第六十戰隊(重爆)ハ南方ヨリ滿洲ニ轉用セラルコトナリマスガ此ノ部隊ハ目下比島作戰ニ充當セラレテ居リマスノテ轉用ノ時機ハ概チ其任務終了後ト致シ度考ヘテ居リマス

右謹ミテ允裁ヲ仰ギ奉リマス

昭和十七年三月二十日

參謀總長

杉山 元

陸軍

航空兵団ノ編組ノ改定等ニ関シ別紙ノ如ク關係官憲ニ命令相成度

謹ミテ

奉仰 允裁候也

昭和十七年三月

参謀總長 杉山 元

陸軍

關東軍司令官

南方軍總司令官

航空兵团司令官

第三飛行集團長

第三

第四

第五

陸軍航空總監

命令

一 航空兵团ノ編組ヲ改定ス

編組別冊ノ如シ

二 第三飛行団ノ編成ヲ令シ且之ヲ南方軍戰鬥序列中ノ直屬航空關係

部隊ニ編入ス

編成別紙第一ノ如シ

ニ與ルル命令(案)

陸軍

四南方軍總司令官ハ別紙第二ノ部隊ヲ滿洲ニ派遣シ関東軍司令官ノ隸下

ニ入ラシムヘシ

五指揮隸屬轉移ノ時機ハ第二項及第三項(別紙第三所掲ノ部隊ヲ除ク)ノ部隊

ニ在リテハ其編成完結ノ時トシ第四項ノ部隊ニ在リテハ滿支國境通過又ハ大連上

陸ノ時トス

六細項ニ関シテハ參謀總長ヲシテ指示セシム

(別紙第八ノ参照)

別紙第一

第三十二飛行團編成

長 第三十二飛行團長

第三十二飛行團司令部

飛行第十六戰隊

(輕爆)

第十獨立飛行隊

第十獨立飛行隊本部

獨立飛行第五十二中隊

(軍偵)

獨立飛行第七十四中隊

(直協)

獨立飛行第七十六中隊

(司偵)

第十一航空地區司令部

第十八飛行場大隊

(輕爆)

第四十八飛行場大隊

(偵察)

第八飛行場中隊

(重爆)

第十三飛行場中隊

(戰闘)

陸

軍

第三十二飛行場中隊
第一航空移動修理班

(戰
闘)

陸
軍

1183

別紙第二

南方ヨリ滿洲ニ到リ関東軍司令官ノ隸下ニ入ル部隊

飛行第六十戰隊

(重爆)

教導飛行第二百四戰隊

(戰鬥)

第十五獨立飛行隊

第十五獨立飛行隊本部

獨飛第五十中隊

(司偵)

獨飛第五十中隊

(司偵)

獨飛第五十五中隊

(司偵)

第三十六飛行場大隊

(司偵)

教導飛行第二百五飛行場大隊

(戰鬥)

第二百一飛行場大隊

(遠爆)

教導第三飛行場中隊

(偵察)

第一航空情報隊(一部)

陸上勤務第七十中隊

陸軍

陸軍

軍事機密

調製年月日 昭和十七年三月十九日

紙 數拾貳 枚

大本營陸軍部

航空兵團ノ編組

註

下段括弧内ハ動員(編成)管理官ヲ示ス

陸軍

航空兵團編組

航空兵團司令官

陸軍中將 鈴木率道

航空兵團司令部

第三飛行集團

編成如附表一

第四飛行集團

編成如附表二

第十五獨立飛行隊

第十五獨立飛行隊本部

獨立飛行第五十中隊

(司偵)

獨立飛行第五十中隊

(司偵)

獨立飛行第五十中隊

(司偵)

第三十六飛行場大隊

(司偵)

第三十九獨立飛行隊

第三十九獨立飛行隊本部

獨立飛行第六十中隊

(直協)

陸軍

獨立飛行第八十七中隊 (軍偵)

獨立飛行第九十中隊 (軍偵)

第五十六飛行場大隊 (偵察)

第二百六獨立飛行隊

第二百六獨立飛行隊本部

獨立飛行第五十四中隊 (直協)

第六直協飛行隊

第七直協飛行隊

第二百七飛行場大隊 (偵察)

航空通信第一聯隊 一部

航空通信第二聯隊

第四

第五

第六

(陸軍省編)

1187

陸軍

第一航空情報隊

第二

第三

第十五

関東軍氣象隊

野戰氣象第五大隊

関東軍航空下士官候補者隊

第七野戰航空修理廠

第八

第十

第十一

第十二

第七野戰航空補給廠

第八

第九野戰航空補給廠

第十

第十一

第十二

白城子陸軍飛行學校材料廠 第二百五分廠 (陸軍航空總監)

第二百七分廠

第二百九分廠

獨立自動車第六十五大隊

(第三軍司令官)

第十六野戰勤務隊

第十六野戰勤務隊本部

(第二十師團長)

陸上勤務第七十中隊

(第二師團長)

第七十六中隊

(第五十二師團長)

第八十九中隊

(留守第四師團長)

第九十中隊

(留守第四師團長)

陸軍

第二野戰建築隊

第二野戰建築隊本部

建築勤務第四十一中隊

建築勤務第四十二中隊

(第六十一獨立歩兵團長)

(第六十二獨立歩兵團長)

(附註第三・第四)

1190

航空兵団編組附表第一

第三飛行集團編成

長 第三飛行集團長

第三飛行集團司令部

第二十八獨立飛行隊

第二十八獨立飛行隊本部

獨立飛行第六十三中隊 (司偵)

獨立飛行第八十一中隊 (司偵)

第二飛行團

第二飛行團司令部

飛行第九戰隊 (戰鬥)

飛行第六戰隊 (輕爆)

飛行第六十五戰隊 (輕爆)

第六飛行團

(昭和十八年)

第六飛行團司令部		(第二飛行集團長)
飛行第七十戰隊	(戰鬥)	
飛行第三十二戰隊	(輕爆)	
飛行第六十六戰隊	(輕爆)	
第八飛行團		
第八飛行團司令部		
飛行第三十三戰隊	(戰鬥)	
第五十八	(重爆)	
第六十	(重爆)	
第十三飛行團		
第十三飛行團司令部		
飛行第八十五戰隊	(戰鬥)	
飛行第八十七戰隊	(戰鬥)	
第二航空地區司令部		

(資料第八〇頁)

航空兵団編組附表第三

第四飛行集團編成

長 第四飛行集團長

第四飛行集團司令部

(航空兵団司令官)

獨立飛行第五十三中隊 (司偵)

(航空兵団司令官)

第九飛行團

第九飛行團司令部

飛行第二十四戰隊 (戰鬥)

飛行第七戰隊 (重爆)

飛行第六十一戰隊 (重爆)

第十四飛行團

第十四飛行團司令部

(第三飛行集團長)

飛行第六十八戰隊 (戰鬥)

(第三飛行集團長)

飛行第七十八戰隊 (戰鬥)

(第三飛行集團長)

白城子陸軍飛行學校教導飛行團

白城子陸軍飛行學校教導飛行團司令部

教導飛行第三百四戰隊

(戰鬥)

(第五飛行集團長)

飛行第四十五戰隊

(輕爆)

飛行第三百八戰隊

(輕爆)

第九航空地區司令部

第十航空地區司令部

白城子陸軍飛行學校教導航空地區司令部

第五十一飛行場大隊

(戰鬥)

第六十九

(戰鬥)

(第二飛行集團長)

第七十九

(戰鬥)

(第三飛行集團長)

教導第三百五

(戰鬥)

(第三飛行集團長)

第四十七

(輕爆)

第三百九

(輕爆)

陸軍

第二十飛行場大隊 (重爆)

第三十八 (重爆)

教導第九十九 (重爆) (航空兵团司令官)

第三十一 (遠爆) (第三飛行集団長)

教導第三飛行場中隊 (偵察) (第三飛行集団長)